

編集部 ユートピアですね。

甲斐 そのためには、オリバーさんがまず基点だと思えます。

編集部 公的な援助はあるんですか。

甲斐 ないです。オリバーさんの場合は、こういう施設を作るために、社団法人の動物福祉協会からの多少なりの援助があると思います。

動物福祉協会というのは地球レベルであつて、その本部がイギリスにあるんです。日本支部からの援助ということです。日本の動物福祉協会というのは、イギリスの寄付が半分ぐらい、あとは日本人の寄付及び会費でまかなわれている団体です。

編集部 そこからの援助ということですが、どれぐらいですか。

オリバー 建物（ブロックのほう）を援助してもらつてます。事務所はイギリスの動物福祉協会の寄付です。事務所は五百万かかりました。

編集部 イギリスという国は、福祉の意識が高いんですね。

オリバー 福祉の歴史が長いですからね。

甲斐 日本の場合は、人間の福祉ですらま

もにできてないんですから、犬猫にしてみらいたいということ自体、あまり大声では言えない部分があると思うんですが……。

編集部 日本はこれだけ経済的に豊かになったんですから、今度は福祉に対する関心が高くなっているんじゃないですか。

甲斐 そう思われますか。

編集部 思います。

甲斐 それは間違いだと思います。これは世の中の流れだと思ふんですけど、感覚が変わってきたというか、自分の家を立派にしましょう、自分のお洋服を立派にしましょう、車は立派なものを買いたしょうと。でも、犬猫は汚い、うるさい。人から文句を言われる。ですから、家族として考えて犬猫の命を考えるとこの感覚は、ものすごく下がってきたと思う。明治ぐらいまでは、野良犬や野良猫はいいばいいたと思うんですけど、日本が急成長以来、不要なもの、お金にならないことは粗大ゴミの感覚で扱ってきたわけですね。犬猫を命として考えないで、燃えないゴミとして扱っていると思ふんです。その感覚がなぜ日本人の中にそんなに芽生えてきたのか、わからない。昔の日本人は、もっと優しい気持ち

ちだったと思ふんです。人間も自然も犬猫も、同じレベルの命として考えていたはずなんです。昔は。でも、いまはそうじゃない。

編集部 いまは、犬猫をオモチャという感覚でとらえている。かわいいからかわいいのオモチャか番犬。あるいは、お金にするための商用。そういう人間の勝手な目的意識だけで飼うのが大半でしょう。でも、その中に、自分の子供だと思つて飼つてる人もいっぱいいると思う、潜在的には。

編集部 動物はペットではないんですよ。甲斐 ペットという言葉よりも、家族の一員です。

編集部 本来は、ペットというべきじゃない。

編集部 ミナミでも、猫とか犬を集めて、アパートで飼つておられて聲（ひんしゆく）をかつてるといふ話もありますけど、こういうふうには皆さんで愛護とか管理を考えておられるところは少ないですね。

編集部 先生や甲斐さんのお考えは、最低限のことは犬にも我慢してもらおう。その代わりそれ以上の最低はさせない。これがいまでも最大の愛情だという考えなんですよ。